もじり百人一首を読む　解説

１.町田家と町田家文書について

〇町田家について

　町田家は、桓武平氏に出自をもち小田原北条氏の家臣であったとされる。近世初期から下名栗村(現飯能市大字下名栗)に住み、万治年間(1658～1661)以降は名主役を世襲していた。また日光法会の取締出役などを任ぜられ、苗字帯刀を許されることもあった。さらに土地を集積して村内でも有力な地主となり、炭商、材木商としても頭角を現し、江戸浅草に材木問屋を開いた。

〇町田家文書について

　本文書群は現在大半が学習院大学史料館に保管されている。当館には典籍の資料が保管されている。

２.本講座で使用する資料について

・町田家文書№143「どうけ百人一首(内題　教歌道化百人一首)」
　嘉永５年(1852)刊行。二世為永春水作、歌川直政画。
　半面の上下２段に二首二図が描かれている。冒頭２丁のみ彩色あり。
　小倉百人一首の上の句だけを変えた狂歌百人一首の一つ。

〇語句

・あいみる茶：藍海松茶。染色の一つ。茶色の濃く黒ずんで藍色がかったもの。
・媚茶：黒みがかった濃い茶色。
・門違：間違えて他の家に行ってしまうこと。
・水なぶり：水遊び
・謡：能楽の詞章。または、これに節をつけてうたうこと。

〇元となった百人一首

・月見ればちぢにものこそ悲しけれわが身ひとつの秋にはあらねど(大江千里)
・このたびは 幣もとりあへず手向山紅葉の錦 神のまにまに(菅家)
・名にし負はば 逢坂山のさねかずら人に知られでくるよしもがな(三條右大臣)
・小倉山 峰のもみぢ葉心あらば今ひとたびの みゆき待たなむ(貞信公)
・逢ひ見ての後の心にくらぶれば昔はものを思はざりけり(中納言敦忠)
・逢ふことの絶えてしなくはなかなかに人をも身をも恨みざらまし(中納言朝忠)

・あはれとも言ふべき人は思ほえで身のいたづらになりぬべきかな(謙徳公)
・由良の門を　渡る舟人　かぢをたえ　ゆくへも知らぬ　恋の道かな(曽根好忠)
・夕されば門田の稲葉おとづれて　あしのまろやにあき風ぞ吹く(大納言経信)
・音にきく高師の浜のあだ浪は　かけじや袖のぬれもこそすれ(祐子内親王家紀伊)
・高砂の尾上のさくら咲きにけり　外山のかすみ立たずもあらなむ(前中納言匡房)
・うかりける人を初瀬の山おろしよ　はげしかれとはいのらぬものを(源俊頼朝臣)

３.文書が生まれた時代背景―江戸のパロディー文化―

江戸時代には、寺子屋等の教育機関の発達、出版の活発化等の要因により、識字率が上がり、幅広い層の人々が文字の読み書きをするようになった。証文や公的な記録など、日々の仕事や生活に必要な文書が多く作成された一方で、人々の娯楽として楽しまれるような作品も多く生み出された。読本や和歌、浮世絵の詞書など、多様な形で趣向を凝らした作品が知られている。それら江戸時代の作品の面白さの一つにパロディーという手法がある。パロディーは現代もよく目にするものではあるが、江戸時代にも広く知られたことを少し改変することで、粋な面白さを味わえるものが多くみられる。今回はパロディーを生かした作品のうち、講義で主題とした百人一首のパロディーを中心に解説する。

〇もじり百人一首が生まれるまで
・百人一首は 100 人の歌人の和歌を 1 首ずつ集めた歌集。最も有名なのは藤原定家が撰者とされる「小倉百人一首」(文暦 2 年(1235)成立)である。「小倉百人一首」は江戸時代になると女子の古典教材として使われるようになり、かるた遊びの題材としても用いられたことで広く人々に知られるようになった。
・古い和歌の本歌取りや折句などの翻案は、古くは上流階級の教養を示す技法として存在した。しかし、江戸時代に和歌が庶民にも親しまれるものとなると、言葉の選び方も俗的な要素が強まり、元歌の雰囲気は残しながら身近なものを滑稽に描き出す作品が登場する。
・百人一首のパロディーには多数の作例が存在し、「狂歌」や「どうけ」といった語を含む題がつけられているものが多い。また、小倉百人一首の枠にとらわれず、主題を一つ決め、その主題に関わる人物を 100 人選び、各人の和歌を一種ずつ収録した異種の百人一首といえる作品も多く見られた。

〇文書館収蔵のその他の作例
・小林(茂)家文書№5000 『英雄百人一首 全』 緑亭川柳著、錦耕堂(山口屋藤兵衛)梓、嘉永元年(1848)。
神代から室町時代頃の武人とその人物の詠んだ和歌を収録している。

４.その他仮名文字が学びやすい江戸のテキスト

往来物、読み本など多彩な資料がある。（文書館に収蔵されているものも！）

☆自分の知っている作品、言い回しが予想しやすい作品から挑戦すると言葉の推測がしやすく、だんだんとかな文字のくずし方が身についてくる。

☆頻繁にかなとして使われる漢字の例を覚える。版本など典型的なくずしになっているものから慣れていくと個人間の書状などきつい崩しにも対応できるようになる。

参考文献

・『武蔵国秩父郡上名栗村町田家文書(1)』学習院大学史料館、1986 年。

・『武蔵国秩父郡上名栗村町田家文書(2)』学習院大学史料館、1988 年。

・『武蔵国秩父郡上名栗村町田家文書(3)』学習院大学史料館、1992 年。

・さいたま市立博物館編『第 17 回企画展図録 江戸のパロディ』さいたま市立博物館、2005 年。

・さいたま文学館編『企画展 百人一首』さいたま文学館、2016 年。

・武藤禎夫『江戸のパロディー もじり百人一首を読む』東京堂出版、1998 年。

・『大辞林特別ページ』日本語の世界 3.平仮名、4.片仮名

(http://daijirin.dual-d.net/extra/index.html) (2021 年 5 月 6 日最終閲覧)。